

保健福祉委員会 送付3-17

令和4年度シルバートレーニングスタジオの予算に関する陳情

受付年月日 令和3年9月17日

陳情者	提出者	1名
	署名者	1名
	計	2名

2021年9月17日

陳情書

千代田区議会議長 桜井ただし様

件名 令和4年度シルバートレーニングスタジオの予算に関する陳情

陳情者

住所

電話

陳情の具体的内容

1. 千代田区のシルトレ担当部局が、シルバートレーニングスタジオをフレイル対策、介護予防事業の中でどのように位置付けているのかを、議会での議論を通じて改めて明確にして頂きたい。
2. 令和4年度シルバートレーニングスタジオの当初予算を令和2年度と同様の方法（積算根拠を明確にする）と同じ内容（トレーニング会場数とトレーニング回数、運動指導員・運動補助員の配置人数）で決めて頂きたい（添付資料1参照）。
3. 令和4年度も新型コロナ感染状況が完全には収束できないことを念頭に、令和4年度からこれまでの会場で週2回シルバートレーニングスタジオを開催できるような特別な措置および新しい会場を探して、従前のようにシルバートレーニングスタジオ参加者が月4回参加できるような措置を早期に講じて頂きたい。

理由

1. 千代田区議会「議事録検索システム」で検索語「シルバートレーニング」で検索すると54文書（115発言）がヒットします。この議事録を熟読すると区が今年1月7日に「令和4年3月31日のシルトレ塾をもってシルバートレーニング事業を終了する」旨を述べた背景が理解できます。しかし、区はこの決定を5月17日に撤回しました。その後、在宅支援課長は今年6月の議会でシルバートレーニングスタジオについて「区のフレイル対策・介護予防事業の柱である」と発言しております。しかし、どの程度の「柱」なのでしょうか。千代田区役所のホームページの区政（予算・決算・財政）では平成29年度から令和3年までの「予算の概要」には一度もシルバートレーニングスタジオについて言及されておられません。令和4年度はどうなるのでしょうか。区民として「柱」の太さ分かる議会での説明を期待しています。
2. 千代田区の歳出予算見積書、および科目別執行状況（歳出）及び科目別支払状況を見ると、令和2年度の当初予算見積額は運動指導員への報償費をはじめ非常に積算根拠が明確です。しかし、科目別執行状況（歳出）をみると、コロナウイルス蔓延の



影響もあって、報償費の一部が委託料に流用され、社会福祉協議会に支払われています（「シルトレ通信」の発行などで社会福祉協議会の協力を得たためと思われる）。いわば、非常時の対応として、当初予算を柔軟に使用したのだと推察します。

私共としては、新型コロナウイルスの感染者数が減少してきているとはいえ、今後どうなるか誰も確定的なことは言えない状況にありますので、シルバートレーニングスタジオ参加者、運動指導員・運動補助者が令和4年度に希望の持てる予算を組み、状況に応じて令和2年度のような対応をして頂きたいと思います。

3. 千代田区区役所、千代田区社会福祉協議会のシルトレ担当者並びに運動指導員の方々のご尽力により、6月21日より「新(New)シルトレ」が開始され、緊急事態宣言下でもシルトレ参加者が毎月2回(各1時間)は運動の機会を得られることになったことを喜んでおります。しかし、今のままでは、月2回が来年度も継続する可能性が少なからずあると認識しています。そこで、現在、週1回しか利用できない区民館のルールをコロナ禍でも月4回を実現できるように、臨時に週2回利用できるようにして頂く、あるいは、さらに会場を探して頂きたいと思います。(区民館では1か月に10コマしか利用できないルールがあり、大きな部屋を使うと1回2コマとカウントされるので、4週間で8コマとなる。従って、週2回は使えない、との説明を受けました。これが区の「会場がない」という実態であるとすれば、空き時間帯にもう1回開催することは可能だと思います)